

第58回研究発表大会の開催を迎えて

東京都中学校教育研究会
会長 秋野 宏之

この1年間は、世界中が新型コロナウイルス感染の脅威と向き合ってきた1年間でした。国内では1月の政府による2度目の緊急事態宣言発令に伴い、様々な活動が制限され、東京都中学校教育研究会（以下、都中数と記す）の第58回研究発表大会についても、残念ながら研究の成果については誌上発表で、講師の先生による御講演はWEBによる動画配信となりました。このような形態にはなりましたが、ここに至るまでご協力頂いた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

前年度の3月からおよそ3ヶ月に及ぶ休校期間を経て、学校再開にこぎつけた中であって、各学校では、少ない授業時数の中で指導計画を作成し、年度内に指導を終えるよう、授業内容の工夫を重ねているはずですが、また、感染症対策のために、話し合い活動の時間も十分に確保出来ず、協同的な学習の充実を図ることが難しいと感じている先生も多いのではないのでしょうか。一方で、今年度は移行期間最終年として、指導内容については新学習指導要領とほぼ同じ内容で指導することになっています。更に、来年度からは評価が4観点から3観点に変わることから、指導と評価の一体化を念頭に置いた評価計画の作成について、今年度のうちに準備をすすめておく必要があります。このことを念頭に、様々な研修を計画しながら、計画通りに実施できなかった地区も多かったのではないかと思います。そのような中ではありますが、残された時間の中で、少しでも多くの準備を進め、4月を迎えられることを願っております。

都中数では、研究部に8つの委員会を組織し、継続的な実践研究を行っていますが、今年度は研究授業や委員会の開催回数も少ない状態での活動となりました。そのような環境下ではありますが、夏の全国算数・数学教育研究（茨城）大会では、3つの委員会が誌上での発表を行いました。さらに、今回の研究発表大会では、7つの委員会が1年間取り組んできた活動の成果について誌上で発表します。加えて、今回も調査部による実態調査の報告を行います。調査部では、毎年、都内全中学校の数学科教員の皆様にご協力をいただき、今日的な課題について調査現場の声をまとめ、経年変化を取り入れた資料を作成し、考察を行っています。回収率は毎年95%以上であり、都全体の傾向を知ることができる資料になっています。これら本集録に掲載された内容をご一読いただき、授業改善の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

また、都中数が毎年実施している事業としては、8月の指導技術向上研修会があります。主に若手教員を対象とした少人数によるグループ研修の形態をとっており、受講生からも高い評価をいただいています。来年度以降も、会員の皆様にとって価値のある研修会となるよう、企画をして参ります。

最後になりましたが、本研究発表大会の講師として東京学芸大学大学院教育学研究科教授 西村圭一先生からは、「数学的活動の充実とその評価」についてご教示頂けることに深く感謝申し上げます。新学習指導要領の数学科の目標である、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通じて数学的に考える資質・能力を育成することを目指す」に直接結びつく内容であることから、動画視聴を通じて皆さんで理解を深め、各自の授業改善に活かしていければと思います。

